



今、日本の農業・農村を取り巻く状況は、農業従事者の減少や高齢化が急速に進み、耕作放棄地による農地の荒廃化や耕作面積の減少といった農業の危機的状況が深刻化しています。また、国際化による輸入農産物の増加や産地間競争などにより、農産物価格は低迷傾向にあります。農村は食料の安定供給のみならず、国土・自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承といった多面的・公益的な機能を有しており、将来においても健全な農村社会の維持・保全を図っていくことが緊急な課題となっています。

このような状況に対応するために、小規模農家や農村集落では、地域農業を守るため、効率的・持続可能な営農に向けて、農業再編の時を迎えています。

結果として農村環境は悪化し、集落農業は衰退してきています

近年、国際化による輸入産物の増加や産地間競争などにより、農産物の価格は低迷の傾向にあります。特に、私たち日本人の主食であるコメの価格は、下落の一途をたどり、これまで行われてきた米の生産調整だけでは解決できないほどの深刻な状況になっています。

た複合経営が長年営まれてきた本町も例外ではありません。農業生産の悪化が、農業従事者の減少や後継者不足に拍車をかける一方、農家の高齢化は進み、それに伴って耕作放棄地は増えてきています。結果として、農村環境は悪化し、集落の農業は衰退していきま

これまでの個別経営体では地域農業を守るの難しくなっています

このような状況の中、これまで同様、各農家が個別に高額な農業用機械を導入し、個別に農作業を行って

非効率的であるのも現実です。また、農家の高齢化に伴い、近い将来、耕作や管理ができずに荒廃する田や畑が増えることが予想されます。

加速する農業者高齢化と後継者不足、増える耕作放棄地面積

全国で農業を取り巻く環境は深刻化しています

全国の農家人口などの状況を見てみると、平成2年から17年の15年間で、農業に従事する人が148万人減っています。また、基幹的農業従事者の65歳以上の割合は6割近くになっています。耕作放棄地は、16万ha増えています。全国的にも農業を取り巻く状況は、ますます深刻化してきているといえます。

全国の農家人口等の状況

区分	平成2年	平成17年
農業就業人口(万人)	482	334
農業者高齢化率(%)	26.8	58.6
耕作放棄地面積(万ha)	22	38

資料：農林業センサス

さつま町でも農業の深刻化が進んでいます

本町の農業・農村の現状を見てみると、農家数は平成7年から平成17年までの10年間で、653戸少なくなっています。農業に従事する人が、10年間で822人減っています。また、基幹産業従事者数の65歳以上の割合は69.3%と7割近くに達し、国の平均58.6%を大きく上回っています。耕地面積は、平成17年で3,420haとなっており、このうち、水田が約67%の2,310haを占めています。経営耕地面積は、農家数の減少や高齢化とともに耕作放棄地が、年々増加傾向にあり、経営耕地面積は、ここ10年間で419ha減少しています。

本町でも農業を取り巻く状況は、ますます深刻化しています。

さつま町の農家数等の推移

区分	7年	12年	17年
農家数(戸)	3,765	3,434	3,112
販売農家数(戸)	2,991	2,686	2,232
農家人口(人)	10,881	9,702	7,558
農業就業人口(人)	4,265	4,088	3,443
高齢農業者数(人)	2,147	2,555	2,387
高齢化率(%)	50.3	62.5	69.3
基幹的農業従事者数(人)	2,894	2,795	2,599

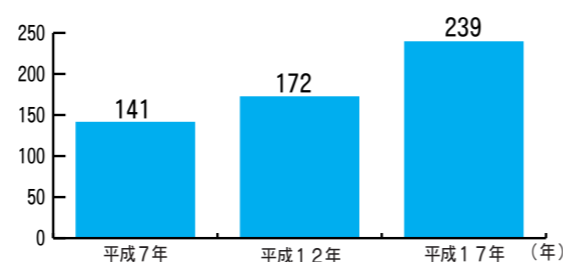
資料：農林業センサス

さつま町の耕地面積の推移 (単位：ha)

区分	平成7年	平成12年	平成17年
耕地面積	3,762	3,554	3,420
うち水田	2,477	2,379	2,310
うち畑	1,285	1,175	1,110
経営耕地面積	3,283	3,125	2,864

資料：農業センサス、農林水産業統計調

さつま町の耕作放棄地の推移



資料：農林業センサス